

ファッションで浜松の街へ旅立とう!

今号の松風のテーマ「夏のリゾート」を聞いて、私が真っ先に思い浮かべたのは、ハワイでもオーストラリアでもなく、12年前に親友Yちゃんと訪れた「ギリシャ・ミコノス島」。ポスターなどでよく見かける、真っ白な家並に大きな風車の景色を持つエーゲ海の離島です(写真)。男同士の熱い抱擁に囲まれて(ミコノス島は世界的なゲイカップルのメッカ)、ちょっと居心地悪くなっていた女2人旅ながら、陽気に降りそそぐ太陽の光と、ギリシャ神話の世界を思わせる牧歌的な空気・そして何よりも、南の海とはまた違う深く鮮やかな「エーゲ海ブルー」に、言葉を失うほど感動したものです。

島の滞在中、リゾート気分の夜の街でひときわ目を引く女性とすれ違いました。それは大胆なビキニのお姉さんではなく、華やかなロイヤルブルーのサマードレスに身を包んだ、80歳位の白髪の欧米系マダム・シミなんて気にしない!とばかりに堂々とデコルテを出して、ダンナ様と楽しそうに腕を組んで歩いていかれるのを、ミニスカート姿の小娘(私)は、2人が曲がり角で消えるまでずっと眺めていたのを強く覚えています。なんてキラキラして素敵なんだろう!それは「女性の美しさや楽しさって、若さじゃないんだ」と悟った、私にとって革命的な出来事の一つでした。

毎日のブティックでの仕事を通して思うのは、どんなに洋服文化が浸透しても、大和撫子(日本の女性)って、やっぱり華やかなカラーや大胆なデザインには「照れ」がある方が多い、という事。特にデザインは、例えばラテン文化の「女性は美しい存在なのだから、美しい物=ボディラインは隠すべきではない」というのとはどうも感覚が違うようです。

でも、普段の生活とは離れ、非日常で開放的な気分になれる「リゾート」というシチュエーションでなら、ファッションも少しだけ大胆に、いつもとは違う自分を楽しむチャンス!

まずはカラーから・もしもあなたがチャレンジしたことがないのなら、ミコノスのマダムを包んでいた「ロイヤルブルー」。今までは皇室カラーとして上品だからこそ敬遠されがちでしたが、ここ数年の流行でトップモードに躍り出てきました。

そしてもう一つ、この夏注目カラーの「ダズリン(dazzling)ブルー」。ダズリンはまぶしいという意味で、鮮やかなブルーのことです。

一見難易度が高そうなこの2色は、必ず女っぷりを上げてくれる、女性の強い味方!

どこかにひとさじ、いつもの自分に新しいカラーを加えるだけで、外見だけでなく心も、新しい自分を発見できそうです。そしてせっかくならリゾート先では、いくつになっても大好きなダンナ様や恋人と腕を組んで歩いて欲しいな、と思います。それが鮮やかな色と同じくらいに女性をとくめかせてより魅力的に見せてくれるはずだから!

・エーゲ海の島の老夫婦のようにはなかなかできない、大和撫子(?)な私のひそかな憧れなのであります。



佐々木まり子

肴町のレディースブティック「Sun Marry」オーナー。Sun Marryは、お客様は3歳から100歳、取扱いブランドは50以上という幅広いバリエーションを持つセレクトブティック。最近では自ら企画したガールズハット「プティマリー」を全国に向けて通販展開している。おしゃれのお手伝いで、関わるすべての女性をより素敵にして、最高の笑顔を引き出したい!と日々奮闘中。